

事業所名	児童発達支援 るしおる			支援プログラム	作成日	2025 年	7 月	1 日
法人（事業所） 理念	保護者も児童も「ほっとする」居場所づくりをめざします。遊びの中で手先が器用になったり発想力、想像力、創造力も育てます。挑戦を繰り返し学んでいき、壁を乗り越える力を伸ばします。人と人との関わりの中でコミュニケーション能力を身に付け、「できた！」を増やしていきます。							
支援方針	・日常生活における基本的動作及び知識技能を習得し、並びに集団生活に適應することができるよう、障害児等の身体及び精神の状況並びにその置かれている環境に適應することができよう効果的な指導及び訓練を行うものとする。・必要な事項について懇切丁寧を旨とし、障害児等に対し、支援を必要な事項について理解しやすいように説明を行う。利用者の人権の擁護、虐待の防止等のため、必要な体制の整備を行うとともに従業員者に対し研修を実施する。							
営業時間	9 時	30 分	から	16 時	0 分	まで	送迎実施の有無	あり なし
	支 援 内 容							
健康・生活	・生活のリズムを整えて定期的に通う。衣類の着脱、身だしなみ、排泄の自立、食事スキル（フナー、食具を使う）の基本的な身辺自立の習得をスモールステップで踏んでいけるようになり「できた！」という経験を増やしていく。 ・利用時期保護者様に体調を聞き体温測定と子どもたちの気分と健康状態を把握する。							
運動・感覚	・子どもたちの行動を観察し適切な対応をすることで行動の修正を促します。・プリント物を通して成長過程に合わせ運筆を行う。 ・様々な活動で手や指を使うアプローチ（粘土、シール、ブロックたて、紐通し等）をしていくことで微細運動のスキルの獲得に取り組む。 ・ボール投げ、リトミツク、ジャッジ、ケンケン、バツク歩き、障害物トレーニング等室内でできる運動スキルを中心に体全体を動かす経験をする。							
認知・行動	・あいさつ、やるべきこと、知っておくことを事前にわかりやすく短い言葉で伝えたり、見てわかりやすく提示、見本を見せて見通しをもちやすくしていく。 ・集団生活で場面行動を周囲の状況に合わせて適切な行動がとれるよう、刺激が多すぎるために落ち着くことが難しいと思われる場合は不必要なものは目に届かない配慮をして環境を整えて刺激を減らしていく。具体的な行動を大人が示す。							
言語 コミュニケーション	・話し方に関わらず話したいという気持ちや素直に表現できるよう様々な活動を通して刺激し育てていく。 ・伝える内容もシンプルでわかりやすい言葉でゆっくり話す。 ・他者の交流を促し楽しいを感じる遊びを促す。文字、具体物の写真を見る。また軽いものを吹く、飛ばす等し声が出やすくなる刺激を行う。 ・相手の喜怒哀楽を示す仕草を見てその感情を推測し起こった状況を説明し問われ自発的にその気持ちを言う経験をしていく。または選択肢から選んで答える経験をしていく。褒める機会を増やして自信を育てていく。							
人間関係 社会性	・こどもの思いを受け止める言葉にする。他者の気持ちを伝え他者との間の心の通訳行う。良いことをした行動ができた時はすぐに褒める。その状況にあった場面でのハルナの言葉を知らせていく。 ・ルール理解や順番を待つ、協力し合う、思いの表現言葉等重視した活動を状況に合わせて知り、経験を積み重ねる。 ・様々な活動を通して考える力、想像力、見る力・まねる力を育てていく。 ・ごっこ遊びを通して友達と深く関わる機会を提供する。一つ一つのものを協力して作る経験をしていく。 ・他者の受容、意見譲歩の経験を積む。							
家族支援	・家族からの相談に対する助言や必要に応じて面談を行う。 ・希望に応じて成長過程の見学を実施する。		移行支援		・園での集団生活に必要なスキルの獲得。 ・就学に向けての準備に取り組む。			
地域支援・地域連携	・必要に応じて訪問、電話等行う。 ・関係機関との情報共有を行う。 ・成長の現れを知らせることで支援のポイントを共有する。		職員の質の向上		外部講師を招く、動画による特性の理解、支援プログラム理解の促進。日々の現れを共有する。			
主な行事等	避難訓練（不審者・地震・火災）水遊び、園芸、食育活動等							

法人（事業所）理念	保護者も児童も「ほっとする」居場所づくりをめざします。遊びの中で手先が器用になったり発想力、想像力、創造力も育てます。挑戦を繰り返し返し学んでいき、壁を乗り越える力を伸ばします。人と人との関わりの中でコミュニケーション能力を身に付け、「できた！」を増やしていきます。		
支援方針	・日常生活における基本的動作及び知識技能を習得し、並びに集団生活に適応することができるよう、身体及び精神の状況並びにその置かれている環境に適応することができるよう適切な指導及び訓練を行うものとする。 ・必要な事項について懇切丁寧を旨とし、障害児等に対し、支援を必要な事項について理解しやすいように説明を行う。利用者の人権の擁護、虐待の防止等のため、必要な体制の整備を行うとともに従業員等に対し研修を実施する。		
営業時間	9 時 30 分から 16 時 0 分まで	送迎実施の有無	あり なし
支 援 内 容			
健康・生活	・基本的な生活スキルの習得を支援する：挨拶・整理整頓・ヘルプの言葉・自らの清潔感ができるよう支援する。 ・信頼関係を通して自分の気持ちを伝えたらわかってもらえた、すっきりしたという経験をする。（心配事も含め） ・生活のリズムを整えて睡眠を充分とっていく。 ・簡単な調理方法で色で見る米煮パランソスを知る。 ・きれいな食器の洗い方を習得する。 ・生活の見通しが時間の使い方となるためスケジュールをカレンダーに書くまたは一日のタイムスケジュールを提示し時間を意識しながら行動する事を経験していく。		
運動・感覚	・体育館で体操を鍛える取り組みを行う。（マット、平均台、パランソスボール、ボールけり、カード取り追いかけっこ等） ・音楽に合わせて体を動かす楽しさを経験する。また画面を用いて曲に合わせて体を動かす。 ・創作を活動を通して、季節の草花を取り入れた取り組みを行う。 ・集中のできる環境づくりをしマリント、具体物を使い指先の感覚を鍛える。		
認知・行動	・買い物学習、図書館、地域の戦場見学等に行く活動では楽しみながら公共のルールを知ることができるようにする。 ・困っている場面では、何故困っているのか、いろいろなことを知っているのかを聞いて、思いを認める。そのうえでもう一度大切なことを伝える。 ・決められた金額で買い物をする事で計算の楽しさを知る。 ・宿題ではわからないところはヒントをだしながら自分で考えられるようにする。		
本人支援	言語コミュニケーション	・敬語の使用や会話の進め方など場面に合わせて適切なコミュニケーションに必要なスキルをスモールステップで行う。 ・相手の説明や解説を最後まで聞いて正しく理解するという経験を必要に応じてプリント物を使用していく。 ・興味のある話題、何気ない日常会話を積極的に行う。	
	人間関係 社会性	・成長に合わせてフライングゾーンをマナーとして知る活動を行う。 ・他者の尊重（許容・謝罪）その日の出来ごとで知らせ知っていく。 ・小集団で社会状況取り出しその事柄の感じること、思ったことをデイスカッションする。 ・ボードゲーム、トランプ等の遊び中でルールを守り気持ちのコントロールができるようにする。 ・困ったとき「教えて下さい」「手伝って下さい」が言える経験をする。	
	家族支援	移行支援	相談支援専門委員、学校、関係機関との連携を行う。
地域支援・地域連携	・家族からの相談に対する助言や必要に応じて面談を行う。 ・日常のことどもの様子を聞くことで心理的、物理的な支援を通じて保護者様負担を軽減し安心して子育てができる環境を整える。さようだい支援も行う。 ・子ども、保護者が必要とする支援を地域で受けられるよう教育機関、医療機関、自治体などの連携し情報交換や支援の内容の調整を行う。 ・地域のスパー・近隣のスパーに買い物。		
主な行事等	避難訓練（不審者・地震・火災）水遊び、園芸、食育活動、大掃除、買い物、グループ活動、職場見学等		